

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成 29 年 8 月 3 日 (2017.8.3)

【公開番号】特開 2016-131105 (P2016-131105A)

【公開日】平成 28 年 7 月 21 日 (2016.7.21)

【年通号数】公開・登録公報 2016-043

【出願番号】特願 2015-4989 (P2015-4989)

【国際特許分類】

H 0 1 R 13/56 (2006.01)

【F I】

H 0 1 R 13/56

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 6 月 20 日 (2017.6.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 8】

また、図 5、図 7 等に示すように、コネクタハウジング 10 の後面 10A における左右両端部には短辺方向に離間して一対のストッパ部 35 が後方へ突出して形成されている。図 7 に示すように、両ストッパ部 35 は、カバー 50 がコネクタハウジング 10 に正規の状態を組み付けられたときに、カバー 50 の短辺側の内面と当接してカバー 50 の一方向（図示左方）への移動を阻止する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 9】

図 7 等に示すように、上側のストッパ部 35 の上端部から長辺方向（コネクタハウジング 10 の中心方向）に一体となって延びるように左右両側に保護壁 37 が設けられている。保護壁 37 は、後記する正規の状態を組み付けられたカバー 50 の側面と平行でストッパ部 35 から連なる連結部 37A と、連結部 37A から後方（電線収容筒 15 側）に向かうように連結部 37A に対して斜めになっている傾斜部 37B と、後記する正規の状態を組み付けられたカバー 50 の側面と平行であって隣接する電線収容筒 15C の間を繋ぐ三角形状の補強リブ 39 と一体になった補強部 37C とを備えている。補強リブ 39 は、電線収容筒 15 よりも後方に突出しており、ストッパ部 35 や保護壁 37 と同じ高さになるようになっている。なお、保護壁 37 と突縁 33 との間には、後記する係止片 55 が撓み可能な空間が設けられており、係止片 55 が撓んだ状態で係止突起 55A が保護壁 37 と突縁 33 の間を通過可能となっている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

図 3 に示すように、カバー 50 の長手方向の両側面において、その下縁部には長手方向

に沿ってガイド部 5 1 が設けられている。ガイド部 5 1 は、コネクタハウジング 1 0 のガイド受け部 2 7 に嵌め込まれることで、ガイド受け部 2 7 に沿って移動可能とされている。また、ガイド部 5 1 の後方には、ガイド部 5 1 の後面から一体になって外方へ向けて開口する断面略 C 字状をなす摺動溝 5 3 が形成されている。摺動溝 5 3 はコネクタハウジング 1 0 の張出部 2 5 に対して同張出部 2 5 に沿って移動できるように嵌め込んでいる。つまり、ガイド部 5 1 はガイド受け部 2 7 に嵌め込まれ、張出部 2 5 が摺動溝 5 3 内に嵌め込まれた状態で、カバー 5 0 を嵌合方向と直交する方向へ移動案内することができる。